

# DECIDUALIZATION INDUCES A SECRETOME SWITCH IN PERIVASCULAR NICHE CELLS OF THE HUMAN ENDOMETRIUM

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2015-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 村上, 圭祐 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001742">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001742</a>

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1645 号

## DECIDUALIZATION INDUCES A SECRETOME SWITCH IN PERIVASCULAR NICHE CELLS OF THE HUMAN ENDOMETRIUM

(子宮内膜脱落膜化過程が子宮内膜血管周囲細胞に特有のサイトカイン分泌を誘導する)

村上 圭祐 (むらかみ けいすけ)

博士 (医学)

### 論文審査結果の要旨

本論文は、ヒト子宮内膜間質細胞から、血管周囲 W5C5 陽性間質細胞と、その他の W5C5 陰性間質細胞を抽出し、妊娠初期の子宮内膜の脱落膜化過程におけるそれぞれの細胞の役割について検討している。

まず、抽出された W5C5 陽性細胞ではそのエピトープである SUSD2 が高発現されているが、In vitro での細胞培養中に、細胞間の接着、Notch シグナリングの活性化によって SUSD2 の発現が変動することが示されている。しかし、RNA-seq を用いたトランスクリプトーム解析では、W5C5 陽性細胞由来の細胞培養群は細胞表現型が W5C5 陰性細胞由来の細胞培養群と異なり、血管周囲ニッチ細胞の特徴を維持することが示されている。未分化状態では W5C5 陽性細胞培養群は W5C5 陰性細胞培養群と比較し、様々な増殖因子やケモカインの分泌が抑制されている一方、脱落膜化刺激を加えることにより、W5C5 陽性細胞培養群では、陰性細胞群と比較し、サイトカイン分泌がより顕著に誘導された。著者らは、妊娠初期の脱落膜化過程における血管周囲ニッチ細胞の特有のサイトカイン分泌が、胎児・母体間でのトロホプラストの母体らせん動脈への侵入や妊娠時に特有な免疫細胞の動員に関与している可能性があるとして結論付けている。

本論文は、ヒト子宮内膜脱落膜化過程における、血管周囲ニッチ細胞の役割を初めて検討した臨床的に意義ある論文である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。